



# くさか景子の

ちよっ

よろしいですか!

と



## 柳島下水処理場の放射性セシウムを含む焼却灰 2,400t! 12月から焼却灰を建屋(塩化ビニール製テント)に保管

**3.11** 後の福島原発事故により、県管理下水処理場の汚泥焼却灰等から放射性物質が検出されており、1日平均 8.5t、11月中旬までに2,400t以上にもなっています。飛散防止のため、水分を30%足し、1tずつアスベスト用袋に入れ、上からブルーシートを被せ、敷地内に野積みしています。

その汚泥焼却灰は、比較的低濃度ではあり、埋立処分を可能とする国の暫定基準値(1kgあたり8,000ベクレル)を下回ってい



焼却灰をシンチレーションサーベイメーターで測定

ますが、周辺住民等の放射能に対する不安か

ら埋立処分ができず、大半は再利用もできない状況です。

私が調査に行き、シンチレーションサーベイメーターで測ってもらくと、袋の上からは、0.25 マイクロシーベルト、6メートル以上離れたら、0.05 マイクロシーベルトになり、平常時と同じ値になりました。灰も、5月のピーク時には、セシウム4,000ベクレルくらいあったのが、今は1,000ベクレル以下まで下がっています。

しかし、引き取り手がないまま、野積み状態では危険なので、県はやっと予算をつけて、テントを建て保管をすることになりました。

根本的に解決するわけではありません。県と県内市町村では、国に対して、国が具体的な処分方法を明示し、国の責任で最終

処分場を確保し、その安全性を国民に周知するよう緊急要望を出しています。

県議会民主党でも11月22日、国の責任を求める要望書を国会に提出しました。

先日、柳島地区で説明会も行われましたが、近隣で遊ぶ子どもへの安全性や住民への情報の開示が不十分だと、不安の声も寄せられています。

今後も、市民に、十分な情報公開や説明責任を果たし、安全安心を与えられるよう、私も強く求めていきます。



柳島下水処理場に野積みされている焼却灰

# こどもたちの未来のために



## 福島県の市民立ち上がる！「いわき放射能市民測定室」始動！ 本当にこの食べ物は安全なの？ 子どもたちに食べさせてもいいの？

福島県第1原発事故から8か月が過ぎ、メディアで原発を報じる回数も少なくなりました。しかしながら、事故現場の状況は、何一つ変わらず、毎日、危険な状態と放射能汚染は続いています。その中で暮らす子どもたちを、放射能汚染から守っていくのが、大人たちの責任だと、いわき市民が立ち上げた放射能測定室を訪ねました。



内部被ばくをより低く抑えるために、食品放射能汚染を測定する食品ルベクレルモニター、イス型ホールボディカウンターなどを導入し、専門の測定者を配置し運営しています。機械は寄付されていますが、運営は市民で担い、運営資金を会費や寄付で賄い、こどものいるお母さんたちが交代で働いています。市民が持ち込む食品の放射能セシウムの値を検知して公開します。11月13日に開所し、14日から食品の測定がスタート。毎日電話は鳴り続け、来所者も多いとのこと。食品の予約はすでにいっぱいとのこと。

茅ヶ崎市においても、食品の汚染に関しては、内部被爆の観点から被爆の影響度の異なる放射線を迅速かつ正確に測定する必要があるとして、簡易型の機器を購入し、第1段階のスクリーニング検査を行います。購入予定機器は、ヨウ素131・セシウム134・137の核種を同時に検出・測定することができます。測定機器の検出限界値は10ベクレル/kg、測定開始時期は、平成24年4月からを予定しています。また、学校、保育園等子どもの集まる場所を優先して、高い線量が予測されるポイントを中心に、空間放射線量測定調査が実施されることになり、判定基準を超えた場合は、簡易な除染を行います。また、市民に空間放射線量を測定する簡易測定器を貸し出す予定です。市民の安心確保がまずは第1優先です。

### くさか景子のほっとコラム

#### Team Aid For Japan～しょうなん茅ヶ崎災害ボランティアから 第2弾！

#### —被災地にお餅を届けよう！！—

お正月にかかせない「お餅」を、年末までに南三陸町戸倉地区仮設住宅を中心にお届けします。ご協力いただける方は、下記要領で、ご持参ください。

募 集 シングルパック(個包装タイプ)切り餅・1kg入り  
新品 未開封 賞味期限 2012年3月31日以後のもの  
募集期間 2011年12月1日(木)～17(土)  
持込み場所 ちがさき市民活動サポートセンター 受付時間 9:30～21:30  
問い合わせ:070-5593-4250(代表)TAJ

